



清教学園、全ての生徒に加え保護者に Google アカウントを発行し ICT 教育環境整備を加速
生徒・保護者・学校をデジタルがつなぎ「学びの見える化」と「ペーパーレス化」を実現
～開始から2ヶ月で約2割のペーパーレス化を実感、保護者からは「連絡事項が全部伝わる」との声～

「一人ひとりの賜物を生かす」ことを掲げ教育活動を展開する清教学園中・高等学校（大阪府河内長野市、校長 森野 章二 以下「本校」）は、2020 年度のコロナ禍におけるオンライン学習での成果を踏まえ、生徒の日常的な学習活動の促進はもとより、保護者との連携をさらに充実化させるため、今年度より Google Workspace for Education のアカウントを本校に通う全生徒の保護者にも発行しました。これにより、2018 年度から Google Workspace for Education を利用する本校生徒の場合と同様、学校との協働的な連携が保護者にも展開されるようになりました。Classroom を通じた連携が可能になったことで、プリント配布を通じたお知らせの際に生じていたような連絡漏れが少なくなると同時に、学校という場における「ペーパーレス化」を加速度的に進めています。生徒・保護者・教員の三者における Google Workspace for Education の活用によって密な相互連携が可能になり、本校では ICT 環境の利用の新たなステージが広がってきています。



（家庭で親子一緒に Classroom の連絡事項を確認）

◆ 本校の ICT 教育の取り組みと 2018 年度から生徒向け運用として始めた Google Workspace for Education

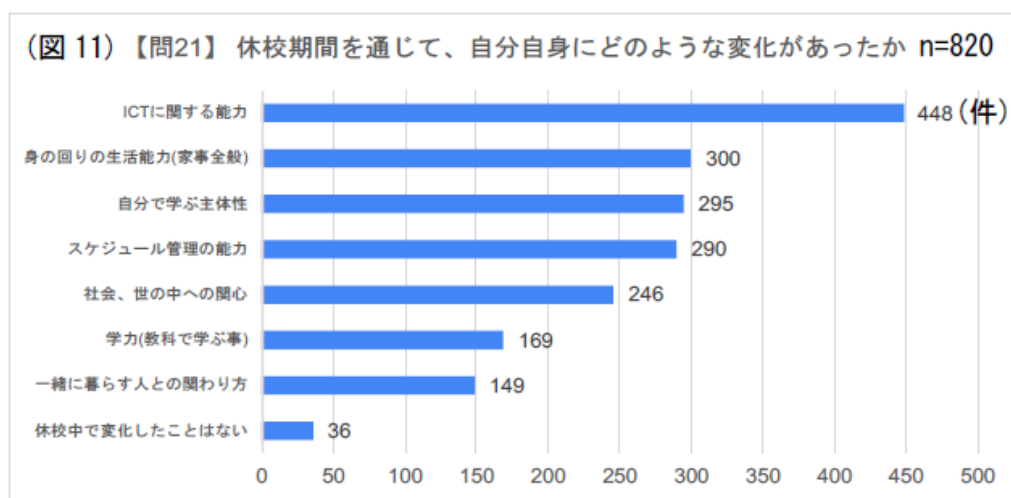
本校の ICT 教育の取り組みとしては、2014 年度には校内全館で Wi-Fi がつながる状況が確保され、また高校生においては 2017 年度に個人所有端末を教育現場に活用する BYOD (Bring your own device) 方式の個人情報端末の携行が始まっていました。

2020 年度初めのコロナ禍による全国一斉休校措置の際も、これまで段階的に ICT 環境整備を進めていたことから、年度開始まもない 2020 年 4 月 15 日にはオンライン学習を始めることができました。また、ICT の”C”（コミュニケーション）の意味を踏まえ、授業を実施するということの「学習内容」にのみ ICT 環境の利用を限定せず、生徒たちが「生活リズム」を組み立て心身の成長を遂げられるようにすることも充実した形にするために、Google Workspace for Education を基本ツールとして活用しています。



Google Workspace for Education は、GIGA スクール構想の実現に向けて全国で広く利用されるようになってきている有効なデジタルツールの一つであり、すでに全世界で 1.7 億人を超える生徒・教師に利用されています。

コロナ禍において本校で Google Workspace for Education を基本ツールとして選択する決め手になったのは、学内での準備作業のみでアカウント付与することができ、生徒・保護者へのアカウント設定が新入学の段階でいち早く可能であるという点でした。また Classroom を通じて学習教材の提供や生徒とのやりとりが安心な形でできるという点、ビデオ会議システム「Meet」を活用して双方向でのつながりを持つことができるという点や、ドキュメントやスプレッドシートが本校の教育活動における特色を為す探究型・協働型学習のプラットフォームになるという点も採用に至った背景です。



休校期間中にオンライン学習を経験した生徒たちの成長 (高校生へのアンケート結果より)

実際に、休校期間中に Google Workspace for Education を活用したオンライン学習では約 55%の生徒が「ICT に関する能力に変化」を感じ、また約 36%の生徒がオンライン学習によって「自分で学ぶ主体性」に変化があったと回答しており、今後のオンライン活用に手応えを感じています。(「高校生へのアンケート結果より」を参照)

このような背景から、2021 年度は保護者にも Google Workspace for Education のアカウントを活用いただき保護者・生徒・学校が密に手を携えて臨めば、生徒の心身のさらなる成長に繋がれると考え、保護者用のアカウント発行に至りました。

これにより保護者にとっては、生徒の学習活動をオンライン上で確認することができることに加え、家庭と学校との間の円滑かつ確実な連絡手段が確保された形になりました。また既に約 20%のペーパーレスにつながっており、保護者からは「子どもが学校からの手紙を家で出すのを忘れたとしても、スマホに通知が届いて手軽に内容を確認できるのがとても便利だし、連絡事項が全部伝わってくるので安心」といった声もあり、既に効果を実感しています。

なお、Google アカウントは、半永久的に使えるアカウントであるため、さらなる学び場へのパスポートとしても機能し、本校としては、人生を通じたりカレント教育を応援するものと期待しています。また、本校では、長期的な将来を見据え、Google アカウントを活用した生徒における学びのポートフォリオの基盤としても、その可能性を模索しています。



◆ 保護者向け文書のペーパーレス化：Classroom の活用



年間行事、シラバスをはじめ、学年学級懇談会の資料、さらには生徒たちに呼びかけている大学主催講座の案内など、保護者はいつでもどこでも手元のデバイスで学校からの連絡内容を確認することができます。教室でホームルーム時に配布していたプリントの代わりに Classroom が情報共有のプラットフォームとなり、ペーパーレスながらも「保護者-学校」の確実な連携が可能になっています。

◆ 休校期間終了後に生徒たちの ICT 活用力が高まったことで新たに始まった取り組み（例）

- ・ 課外補講の一部におけるオンライン実施：Classroom によるアダプティブな学習
 - 参集型・一斉型・プリント学習とは異なる個別学習の可能化、オンデマンド教材の拡充
- ・ 台湾屏東縣立中正國民中学とのオンライン交流：meet によるグループディスカッション
- ・ 東京都立白鷗高校（WWL）との探究活動交流会：meet による研究発表交流
- ・ 図書館総合展へのオンライン参加、オンライン読書交流：meet による討議交流
- ・ 生徒作成クラウドファンディングサイトの試行における意見聴取：Forms によるアンケート
- ・ School of Science and Technology Singapore（SST）とのオンライン協働学習：Drive を活用した協働の展開
 - デジタル活用をきっかけに出会いが広がる形でのグローバル活動・探究活動・成果発表

◆ 校長からのメッセージ

2020 年度のコロナ禍は、今後の教育のあり方、学校のあり方について、新たな視点を与えられる機会でした。まさにピンチはチャンスという言葉が実感される一年だったと思います。本校では、新入生を含むすべての生徒が心身の成長に不可欠な日々の生活リズムを整え、また必要な学習を進めることが途切れなくできるよう、その最適化のために Google Workspace for Education を基本ツールにし、ICT 活用やオンラインによる取り組みを進めてきました。その中でなされた生徒たちの成長の足跡を見るに、グローバル教育、アクティブラーニング、アダプティブラーニング、探究学習など、これまで大切とされてきた教育活動上のさまざまな命題を実現するための有意義な支援ツールの一つが Google Workspace for Education であり、その活用は with コロナ、after コロナにかかわらず重要になってくると言えます。また、学校での教育活動の質向上に欠かせない保護者との連携についても、ICT の活用は大きな展開をもたらしてくれています。今後もそうした流れを踏まえつつ、生徒たちにおける学びの進化・深化に向けて、次のステップへの備えをしていきたいと考えています。



◆ 学校概要

学校名	学校法人清教学園 清教学園中・高等学校 (私立、共学)
所在地	大阪府河内長野市末広町 623
代表者	校長 森野 章二
設立	1951 年 4 月 1 日
生徒数・ 教職員数	中学校 475 名、高等学校 1,182 名、教職員 201 名
内容	・ 学校教育（中学校、高等学校 [普通科]：キリスト教主義） ・ 学習指導（進路開拓、21 世紀型学習：探究×グローバル×ICT 活用） ・ 勉学と課外活動の両立

取材に関するお問い合わせ

清教学園中・高等学校 法人事務局 広報担当：植野 公稔

TEL：0721-62-6828 E-mail：hq@seikyo.ed.jp

URL：<https://www.seikyo.ed.jp/>